

日本医学会分科会活動報告

学会名(No. 69) 日本免疫学会

代表者名 黒崎 知博

I. 医学および医療の水準の向上への貢献が日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会の独自の活動を以下に留意して記載をしてください。

a. 特に学術的に重要と考えられるもの

日本免疫学会学術集会を毎年開催し、日本における免疫学の発展や免疫疾患病態研究の発展に寄与した。特に近年は、新型コロナウイルス感染症の研究に特化し、感染に対する免疫応答やワクチン開発など多岐にわたり議論を行った。また、理化学研究所との国際シンポジウムも開催しており、学術的意義は深いと考えられる。

b. 当該領域における国際的な役割

1) 日本免疫学会は、国際免疫学会連合 (IUIS) やアジアオセアニア免疫学会連合 (FIMSA) の一員として活動し、FISMA 教育コースを開催、理事を出すなど、国際的な免疫学の発展に貢献している。これらの免疫学会連合では3年に一度ずつ、国際免疫学会を開催しており、この運営にも日本免疫学会は、貢献している。さらに、日本免疫学会では、ドイツ、フランス、オーストラリア、韓国免疫学会と相互交流のMOUを締結し、国際的な連携を行っている。

2) 日中韓の交流事業として、2024年は第5回日中韓免疫シンポジウムをFIMSA Advanced Training Courseと合わせて日本(幕張)で開催した。次回は韓国で開催を予定しており、継続的な活動を行う準備を進めている。

3) ドイツ免疫学会と共にJoint Webinar Seriesを2023年11月より月1回開催している。また、フランス免疫学会とのWebinarシリーズも開催するなど、積極的な国際活動を推進している。

c. 活動からもたらされる社会的な意義

上記のような学術的貢献に加え、日本免疫学会では毎年一般へのアウトリーチ活動として「免疫ふしぎ未来」を開催している。一昨年は5000人以上の一般参加者があり、免疫に関する正しい情報の普及に努めてきた。さらに、ホームページにおいて理事長メッセージとして新型コロナウイルスに対するワクチンなど正しい知識の普及に貢献している。

また、毎年免疫サマースクールの開催や、若手研究者への奨学金として「きぼう」プロジェクトを設立し、若手免疫学研究者の育成、啓蒙活動に努めてきた。免疫ふしぎ未来によるアウトリーチ活動にも注力し、さらに、日本免疫学会では、若手免疫学研究支援事業、および若手女性研究者研究支援事業を行い、研究助成を行う事で、若手、女性研究者の育成を行っている。これらの活動を通じ日本免疫学会は、大きく社会的に貢献していると考えている。

d.学会運営上留意している点

上記のように、日本免疫学会では、男女共同参画や、学術集会でのワークショップ開催など若手研究者の育成に留意した学会運営を行っている。学術集会の一部を全対面方式からオンライン参加も選択できるハイブリッド方式へとスライドさせ、ダイバーシティにも配慮している。日本免疫学会の国際的プレゼンスを向上させることにも留意している。

II.日本医学会分科会にふさわしいと考えられる貴学会と他の分科会との連携による活動を記載して下さい。

特記事項無し。